

# 牧野富太郎伝 「草木の人」に出演して

渡辺忠直



プロは演技を見せてくれた渡辺絹子さん

「劇団the・創」の代表から「出てよ」との声がかかり、私と絹子を含めて佐川から8名が出演することになりました。代表をはじめ団員の指導でメキメキ上手くなっていきま

した。この劇団は脚本を含めて出演者やスタッフの意見を聞き、みんなでつくり上げる劇団だと感じました。絹子は、と



初出演ながら三役をみごとにこなした渡辺忠直さん



また、12月3日には大原富枝の郷里本場で、原作の「草を褥に」の演題で公演しました。本山の皆さんが出演され、少しだけ配役も変わりましたが、本町プラチナセンター

に2000名を超える観客でした。大原富枝への思いも重くなったのか熱気のあるものでした。私は出演を通して、妻の寿衛子が大好きになりました。富太郎は学者として素晴らしい力量を備えていて、それを生かすために支え続けてきた寿衛子の素晴らしさが好きになりました。

## 第28回「12・8平和のつどい」 わいわいがやがや

### 平和のつくりかた

12月4日、高知城ホールで「12・8平和のつどい」が開かれ、香南市のニラ農家山本明紀さんと、弁護士・近藤恭典さんが日本国憲法をどのように生かし、平和をつくっていくのかを参加者とともに語り合いました。



元氣いっぱい話して下さった山本さん(左)と近藤さん



心に響く歌声を聴かせてくれたセンター合唱団

うとか、言うことをきかなくなるとか、目にあわせるとか、そんなへごをこの世から無くすように頑張る。ゆるゆるの国々のなかで「日本はしょう頑張りゆうやんか」いうて尊敬されるばあいの国になりたいと思いがです。世界中でこの国の人も怖がりたり、ひもじかったりという難儀をせんずつ平和に生きる権利があるがやと思うちよります。」と土佐弁に訳しています。対談形式で堅苦しさがなく、楽しく元氣の出る集会でした。

オープニングは高知センター合唱団の合唱「うれっしやがや」で始まりました。生で聞く合唱も久しぶり、平和への思いが力強く心に響く歌声でした。山本さんのエネルギー、豊かな表現力、考え方や意見の違いに垣根を取り払って向かっていく明るく率直な姿勢と行動力に励まされました。近藤さんはユーモアを交えて、憲法は13条が出発点、「権利と義務はセット」と2択を迫る風潮には注意が必要で個人の尊厳を侵したり守れないものは間違って、目的と手段を入れ違えてはいけない、なぜ表現の自由が大事か、などを基準に見るかを分かりやすく話してくれました。

地道に当たり前のことをきちんとして「九条」に込められた素晴らしさをどう広げて、仲間をどう増やすか、学ぶことがいっぱい対談でした。(林 博子)